

8

基本方針 8

住み続けたいと思える 快適で魅力的なまちづくり

1 魅力的な環境整備による定住促進

- 1 定住につながる魅力的な住環境の整備
- 2 良好な住環境の形成

2 住民の生活を支える交通環境の充実

- 1 阿武隈急行線の利用促進及び支援
- 2 身近な公共交通手段の確保

3 快適で利便性の高い道路環境の整備

- 1 広域交通体系の整備
- 2 主要道路の整備
- 3 人にやさしい道路管理

4 快適に暮らせる上下水道の整備

- 1 安心・安全なおいしい水供給の推進
- 2 環境に配慮した水処理の推進

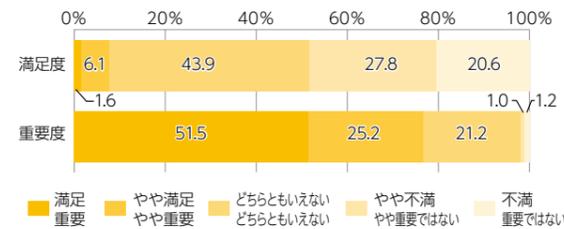
基本方針8 住み続けたいと思える快適で魅力的なまちづくり

1. 魅力的な環境整備による定住促進

現状と課題

◆ 本町の急速な少子高齢化の要因の一つとして、若年層が安定的な雇用や快適な住居を求めて都市へ流出していることがあげられます。これまでも新婚・子育て世代など若者の町内定住を促進するため、定住施策の充実に努めてきましたが、更なるニーズに応じた「若者定住対策」を推進する必要があります。

若者定住対策による活気あるまちづくりに関する満足度・重要度



資料：一般町民アンケート調査（H25年実施）

◆ 多くの方が“住んでみたい”“住み続けたい”と思える、快適で魅力的な住環境の整備が求められています。

◆ 町営住宅を284戸（平成26年12月現在）運営管理していますが、老朽化の進んだ住宅については、修繕や建替えによる計画的な維持管理が必要となります。

施策の基本方針

若者定住施策による活力あるまちづくりを重点的に進めるとともに、町民一人ひとりが安心して暮らせるゆとりと潤いのある魅力的なまちづくりを推進します。

また、空き家の増加が深刻な問題となる中、既存住宅の有効利用を図りながら、幅広い世代が魅力を感じる住環境の整備を行ないます。

施策体系

魅力的な環境整備による定住促進

● 定住につながる魅力的な住環境の整備

● 良好な住環境の形成

施策に対する目標	平成25年度 (現況値)	平成31年度 (中間値)	平成36年度 (目標値)	単位
若者定住対策による活気あるまちづくりに満足している町民の割合	7.7	25.0	50.0	%
丸森町は住みよいまちと感じている町民の割合	66.0	70.0	80.0	%

主要施策の概要

① 定住につながる魅力的な住環境の整備

新婚・子育て世代に対して、若者定住促進住宅や定住促進団地の提供、新築やリフォーム住宅取得、賃貸住宅家賃支援を行うとともに、民間業者へのアパート経営事業や宅地開発事業への支援による若者定住施策を推進します。

また、移住を希望する方に対して、地域が主体となった受入体制を促進することで幅広い世代の定住促進を図ります。

地域の資源を活かした魅力的な住環境の整備と宅地造成事業による定住施策を推進します。

目標設定指標	平成25年度 (現況値)	平成31年度 (中間値)	平成36年度 (目標値)	単位
新たに定住した人数	21	20	20	人
定住促進住宅整備戸数	44	60	68	戸

主要事業

- 定住促進事業
- 若者定住促進住宅建設事業
- 丸森駅周辺住環境整備促進事業
- 移住マネジメント事業
- 宅地造成事業

②良好な住環境の形成

町民一人ひとりが自らの住まいや地域に誇りを感じ、“丸森に住んで良かった”と言える住環境を創造します。また、年々増加している空き家等については、調査に基づく適正な活用、防犯・防災対策を進め、地域コミュニティの充実に努めるとともに、木造住宅の耐震対策と宅地の防災対策による安全性の確保に努めます。

また、町営住宅についても、高齢者や障がい者が安心して暮らせる住環境の提供に努めます。

目標設定指標	平成25年度 (現況値)	平成31年度 (中間値)	平成36年度 (目標値)	単位
快適に暮らせる町営住宅 (定住含む)	106	272	284	戸

主要事業

- 空き家調査事業
- 町営住宅建替・改修事業
- 木造住宅耐震化改修事業



丸森駅前



若者定住促進住宅

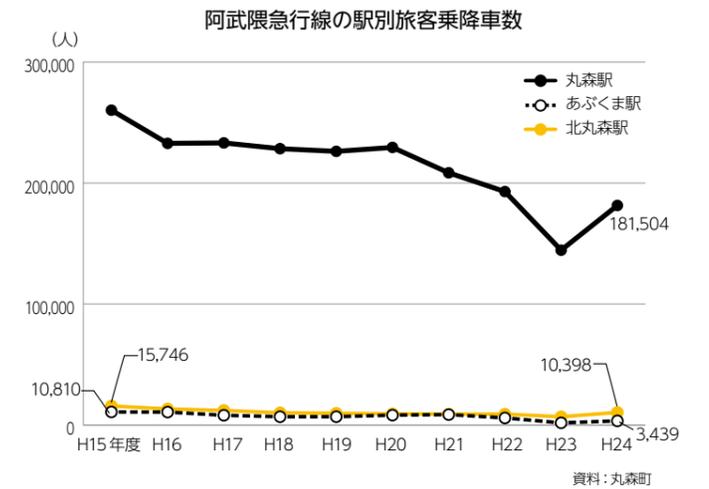
2. 住民の生活を支える交通環境の充実

現状と課題

◆ 鉄道は、福島～槻木を結ぶ「阿武隈急行線」が南北に通り、最寄り駅として「あぶくま駅」、「丸森駅」、「北丸森駅」の3駅があります。通勤・通学の利用だけでなく、本町への観光客の交通手段としての役割を担っていますが、乗降客数は減少傾向にあります。町では、通勤・通学者を対象とした通勤定期券・運賃の助成や、観光客向けのお買物券サービスなど、「阿武隈急行線」の利用促進に向けた様々な事業を展開しています。

◆ 町民の身近な交通機関である町民バス、予約型乗合タクシー「あし丸くん」を運行しています。特に、「あし丸くん」は、自宅から町中心部のまちなか拠点施設まで運行しており、町民が利用しやすい交通手段となっています。

◆ 急速な高齢化によって、誰もが安心して利用できる移動手段として、その役割がますます期待されることから、町民・行政・交通事業者が連携をとりながら、ニーズに合った公共交通環境の整備が求められています。



施策の基本方針

町民の利便性と快適性を確保した、総合的な公共交通環境の充実を図ります。

施策体系

住民の生活を支える交通環境の充実

阿武隈急行線の利用促進及び支援

身近な公共交通手段の確保

施策に対する目標	平成25年度 (現況値)	平成31年度 (中間値)	平成36年度 (目標値)	単位
公共交通の利便性に満足している町民の割合	7.7	10.0	20.0	%

主要施策の概要

①阿武隈急行線の利用促進及び支援

本町にとって欠かせない公共交通機関である「阿武隈急行線」については、適切な駅施設の維持管理を行い、利用しやすい環境を整えるとともに、安全な運行に必要な車両等の修繕や設備導入などを支援します。また、「阿武隈急行線」に関係する各種イベントの開催や情報誌の発行などにより利用促進を図ります。

目標設定指標	平成25年度 (現況値)	平成31年度 (中間値)	平成36年度 (目標値)	単位
阿武隈急行線利用者数	246,000	246,000	246,000	人

主要事業

- 丸森町阿武隈急行線利用促進事業
- 阿武隈急行支援事業
- 多機能型（交通、観光、コミュニティ等）丸森駅舎及び駅前広場整備検討事業

②身近な公共交通手段の確保

町民の身近な交通手段である町民バスの運行や予約型乗合タクシー「あし丸くん」への運行支援等を行い、町民の身近な公共交通を確保し安心・安全で快適な暮らしを支えます。

目標設定指標	平成25年度 (現況値)	平成31年度 (中間値)	平成36年度 (目標値)	単位
バス等公共施設利用者数（阿武隈急行線除く）	70,000	70,000	70,000	人

主要事業

- 町民バス運行事業
- デマンドタクシー運行事業
- バス路線再編検討事業

3. 快適で利便性の高い道路環境の整備

現状と課題

- ◆ 広域幹線道路としては、相馬市～角田市～白石市を連絡する「国道113号」、角田市～福島県伊達市を連絡する「国道349号」が通っています。これらの路線と主要地方道3路線、一般県道7路線が接続し、幹線道路網が形成されています。

町道の整備状況

路線数（本）	447
延長（km）	433.2
改良率（%）	67.9
舗装率（%）	88.2

資料：建設課

- ◆ 生活道路については、これまで計画的に整備を進めてきましたが、多くの路線において、幅員が狭く、全体的に損傷が進んでいることから、計画的な改良・補修を行い、安全で快適な道路環境を整備が求められております。

施策の基本方針

日常生活に必要な道路の計画的な整備と、産業を支えるための高速交通網へのアクセス道路の整備を進めることにより、道路ネットワークの向上を図ります。また、道路交通の安心・安全の確保のため適正な道路維持管理に努めます。

施策体系



施策に対する目標	平成25年度 (現況値)	平成31年度 (中間値)	平成36年度 (目標値)	単位
幹線道路（国・県道）の整備に満足している町民の割合	23.1	26.5	30.0	%
生活道路（身近な道路）の整備に満足している町民の割合	25.3	27.5	30.0	%

① 広域交通体系の整備

隣接市町とともに町内の各地域を結ぶ、「国道 113 号」、「国道 349 号」及び「主要地方道丸森霊山線」等の広域的な交通体系の骨格を形成するアクセス道路については、整備促進や全面改良に向けた要望活動を進めます。

目標設定指標	平成25年度 (現況値)	平成31年度 (中間値)	平成36年度 (目標値)	単位
要望路線着工率	20.0	80.0	100.0	%

主要事業 ● 国道 349 号整備促進事業 ● 主要地方道白石丸森線整備促進事業



国道113号

② 主要道路の整備

町民の日常生活、物流等の経済活動を支える主要道路については、快適で利便性の高い道路環境の整備を進めます。また、子どもから高齢者の誰もが安心・安全に通行できる道路環境を提供します。

目標設定指標	平成25年度 (現況値)	平成31年度 (中間値)	平成36年度 (目標値)	単位
事業進捗率	0.0	50.0	100.0	%
道路改良率	67.9	69.0	70.0	%

主要事業 ● 町道改良舗装事業 ● 丸森型道づくりコラボ事業

③ 人にやさしい道路管理

道路交通の安全性・円滑性・快適性等を確保し、防災、ライフライン等の機能向上を図るため、町民と行政が協働により、歩行者と自動車が安全に通行できる道路の維持管理に努めます。

目標設定指標	平成25年度 (現況値)	平成31年度 (中間値)	平成36年度 (目標値)	単位
橋梁長寿命化計画策定率	19.3	100.0	100.0	%

主要事業 ● 道路修繕事業 ● 橋梁長寿命化事業 ● 段差のない歩道整備事業

4. 快適に暮らせる上下水道の整備

現状と課題

- ◆ 本町は、集落が広範囲に散在しており、多様な地理的条件を有していることから、水道普及率が低迷しています。今後は水道水源の確保はもとより、地域それぞれの特性を生かした効率的な整備が必要です。
- ◆ 公共下水道は、計画区域面積の89.4%（平成26年3月末日現在）まで整備が進んでおり、宅地への公共樹設置は完了しています。今後は、水洗化の普及に努めるとともに、下水道等処理区域外の地区については、合併浄化槽の普及に努める必要があります。
- ◆ 安全で安定的な水供給・処理を維持していくため、公共下水道及び農業集落排水施設の老朽化への対応や耐震性の向上など長期的な視点に立った維持管理が重要な課題となっています。

施策の基本方針

水道水の安全性を高めるために水質管理の強化による安全で安定した水の供給、下水道による汚水の適正処理など、上下水道事業の財政状態及び経営状況を明らかにしながら、計画的な施設更新、整備を図ります。

施策体系

快適に暮らせる上下水道の整備

● 安心・安全なおいしい水供給の推進

● 環境に配慮した水処理の推進

施策に対する目標	平成25年度 (現況値)	平成31年度 (中間値)	平成36年度 (目標値)	単位
上水道などの飲料水の確保に満足している町民の割合	62.5	66.3	70.0	%
下水道の整備と汚水や雨水の処理に満足している町民の割合	34.5	40.0	50.0	%

主要施策の概要

①安心・安全なおいしい水供給の推進

安心・安全な水を安定的に供給するため、水道施設の適正な維持管理及び運営管理とともに、水道未給水地区への水道施設等の整備を進めます。

目標設定指標	平成25年度 (現況値)	平成31年度 (中間値)	平成36年度 (目標値)	単位
行政区域内水道普及率	65.4	67.7	70.0	%

主要事業

- 水道未給水対策事業
- 館矢間地区緊急時用連絡管整備事業
- 測ノ上配水池改築事業

②環境に配慮した水処理の推進

衛生的で快適な暮らしを支え、公共用水域の環境負荷の低減をめざし、下水道・合併浄化槽による水洗化の普及を推進します。また、既存下水道施設等の長寿命化及び耐震対策による適正な維持管理を実施し、公衆衛生・生活環境の向上を図ります。

目標設定指標	平成25年度 (現況値)	平成31年度 (中間値)	平成36年度 (目標値)	単位
水洗化普及率	69.9	79.5	86.1	%

主要事業

- 公共下水道長寿命化事業
- 農業集落排水機能強化対策事業
- 浄化槽普及推進事業